

Let's supply 500 Eel Bowls to the evacuees from the nuclear accident at Fukushima!

土用の丑の日 (2011. 7. 21)

「被災者にうなぎを届けよう!」プロジェクト報告

つくば学園ロータリークラブ
国際奉仕委員長 倉持 武久

このプロジェクトは東日本大震災の余震が続く中、国際奉仕を国内奉仕に切り替えて何か出来ないかと考えて生まれました。特に原発からの避難者は将来への展望も描けず、辛い避難生活を続けている様子です。その人たちに少しでも元気を付けていただけたらと、郡山の「ビッグパレットふくしま」へ、うなぎの真空パック 500 人分とともに地元中学生の応援メッセージを添えて届けることにしました。



この企画を進めるうちに、古河ロータリークラブとタイのスリウォンロータリークラブが協力してくれることになり、マッチング・グラント事業として認定されました。国境を越えたロータリーの友情に心から感謝する次第です。



7月21日は台風の影響が残る中、下村正会長をはじめ19名のメンバーが集合。新聞の取材を受けながらうなぎと奈良漬などを積み込み、車4台に分乗して一路高速で郡山へ。

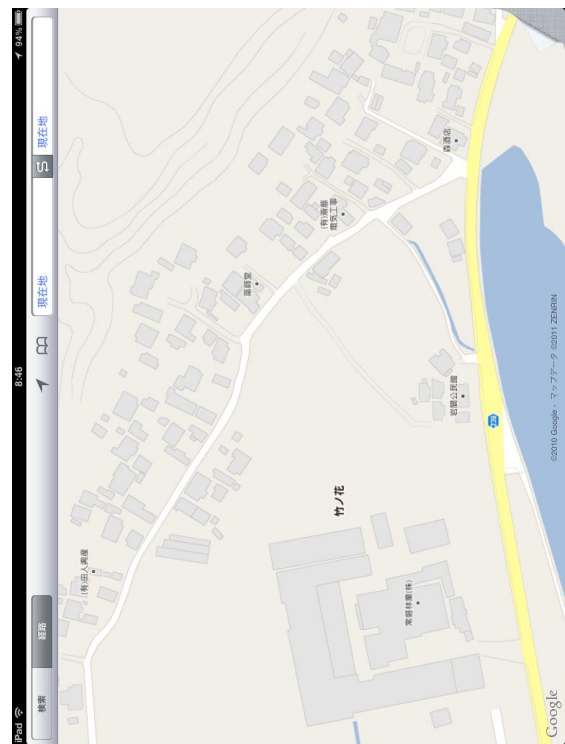
現地では福島 2530 地区幹事の石田さん、古河 RC 幹事の長澤さんほか多数のロータリアンの出迎えを受けました。早速うなぎ等を降ろして、避難している富岡町の給食担当者に引き渡し。写真撮影の後は富岡町の代表者と懇談の場を持ちました。



その後、避難所の様子を見て回りましたが、段ボールで仕切って生活している不自由さを肌で感じました。避難者の多くは仕事を得られず、これからどうしたら生活基盤が築けるか全く予定が立たないとのこと。今後の困難さも我々には計り知れないほどです。

帰りには、いわき市内の海岸線を視察。津波によって流された家屋の基礎部分だけが残る村落を見て、参加者全員が絶句。そこには全く人影が無く、ガードマンだけが見張りをしていました。我々の住む町から 100 キロ余りしか離れていない所で、これだけ甚大な被害があったとは、にわかには信じられないものでした。





ロータリーの場合、募金などの間接的な支援が多いのですが、「相手の顔が見える」支援はメンバーの絆を太くするとともに、完了時には達成した喜びも感じられました。

帰路の高速道路には「愛と勇気をありがとう・福島県人一同」の横断幕が。



郡山の避難者の姿が目につかび、胸が熱くなりました。これからも及ばずながら支援活動が続きたいものです。